

研究実施のお知らせ

2026年1月13日 ver.1.0

研究課題名

免疫染色による好酸球性消化管障害における粘膜内免疫動態の解析

研究の対象となる方

2016年1月から2026年1月の間に島根大学医学部附属病院で消化管内視鏡検査、手術時の消化管検体からの病理組織学的診断にて non-EoE EGID と診断された方

研究の目的・意義

好酸球性消化管疾患（EGID）という病気は、食べ物などに対する体の過剰な反応がきっかけとなって、胃や腸の中に「好酸球」という炎症に関わる細胞がたくさん集まり、慢性的な炎症を起こす病気です。

この病気には、食道だけに炎症が起こるタイプ（好酸球性食道炎）と食道以外の、胃や腸に炎症が起こるタイプ（好酸球性胃腸炎）の2つがあります。日本では、後者の「胃や腸に起こるタイプ」が比較的多く、最近では大人だけでなく、学童期以降の子どもでも見つかることが増えてきています。

この病気は以前から知られているにもかかわらず、今のところ主な治療はステロイド薬に限られており、効きにくい方や、何度も症状をくり返してしまう方も少なくありません。そのため、なぜ炎症が続くのか、体の中で何が起きているのかは、まだ十分に分かっていないのが現状です。

私たちはこれまでの研究で、患者さんの胃や腸の組織を詳しく調べ、どの場所で、どのような遺伝子が強く働いているのかを最新の方法で解析してきました。その結果、胃や腸の表面をおおっている細胞で、炎症やバリア機能、組織の硬さ（線維化）などに関係する遺伝子が強く働いていることが分かってきました。

今回の研究では、これらの遺伝子が実際にどのようなタンパク質として作られ、どこで働いているのかを、顕微鏡を使った検査で確認していきます。

この研究が進むことで、なぜ炎症が続いてしまうのか、なぜ治りにくい人がいるのか、といったことが少しずつ明らかになり、将来、今よりも体に負担の少ない新しい治療法につながる可能性があると考えています。

研究の方法

・利用する情報の項目：

- 1) 臨床データ（性別、年齢、身長、体重、既往歴、アレルギー歴、EGID 治療歴）

- 2) EGID 診断時の採血データ（赤血球数、ヘモグロビン、白血球数とその分画、総蛋白、アルブミン、AST、ALT、LDH、総ビリルビン、ALP、 γ GTP、アミラーゼ、総コレステロール、クレアチニン、IgE、CRP）

・利用する試料（検体）の取得の方法：

研究対象期間中に、診察や検査の結果から「好酸球性胃腸炎（non-EoE EGID）」と診断された方を対象として診療過程で採取され、病理部で通常保管されている組織検体を使用します。

これらの検体は、診療の一環としてすでに保存されているものであり、研究のために新たに組織を採取することはありません。

研究に使用する際には、お名前や患者番号など、個人を特定できる情報はすべて削除し研究用の識別番号のみを用いて管理します。

研究の期間

2026年2月（研究許可後）～2029年3月

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者：

島根大学医学部内科学講座（内科学第二） 大嶋 直樹

試料（検体）・情報の利用停止

ご自身の試料（検体）・情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2026年9月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の試料（検体）・情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部内科学講座（内科学第二） 大嶋 直樹

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2190 FAX 0853-20-2187